

柏市 新総合計画 策定方針

— 新たな時代と次世代へつなぐ価値創造 —



柏市

《目次》

I	新総合計画の策定に向けて	1
	1. 第五次総合計画の特徴と振り返り	1
	2. これからのまちづくりにおける前提	2
	3. 新総合計画策定にあたっての基本的な考え方	4
II	新総合計画の構成案	5
	1. 新総合計画策定に向けた思考プロセス	5
	2. 新総合計画の体系	6
	3. 戦略プランの基本的な考え方	7
III	新総合計画の進め方	8
	1. 策定体制	8
	2. 新総合計画を構成する項目案との関係図	10
	3. 策定までのスケジュール案	11

I

新総合計画の策定に向けて

1. 第五次総合計画の特徴と振り返り

平成 28 年度から運用している現在の総合計画【柏市第五次総合計画】の基本構想では、将来にわたって持続可能なまちづくりを市民・事業者・教育機関・行政等が一体となって進めるための**将来都市像**を設定し、この都市像を実現するために、本市として今後 10 年間で特に注力して取り組むべき内容を、**まちづくりの基本的な目標（重点目標）**として定めました。

第五次総合計画は、平成 28 年度からの 10 年計画として、令和 2 年度までを前期基本計画として、令和 3 年度からは後期基本計画として運用していく予定でありましたが、令和 2 年の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、後期基本計画の構成は、前期基本計画とは一線を画した計画として、名称も【柏市経営戦略方針（第五次総合計画後期基本計画）】として策定しました。

具体的には、**前期基本計画**は将来の想定される街の課題（少子高齢化・中心市街地の魅力・吸引力の低下など）を踏まえ、施策体系や重点事業を固定した**戦術的総合計画**であったのに対し、**後期基本計画**は将来の見通し立たない、不確実性が高まる社会情勢においても、機動的かつ効果的な施策を、その時々々の時勢に応じて検討しながら全庁的に実行できるよう、その思考の在り方やプロセスマネジメントに重点を置き、戦術としての事業は固定化せず、進むべき方向性を示す**方針的総合計画**としてまとめました。

ただし、前期基本計画、後期基本計画ともに、第五次総合計画全体としては、これまでのまちづくりの**連続性**を重視した総合計画でありました。

しかし、将来にわたり持続可能な街として成長しつづけるためには、今後も進む少子高齢化や人口減少に加え、社会の価値観も大きく変容していくなかで、これからの社会において、街としての新しい**付加価値を創造**することが重要であり、その指針を**総合計画**で示すことが求められています。

2. これからのまちづくりにおける前提

これまで本市のまちづくりは、都心への交通の利便性と住宅条件や住宅価格などの生活・居住環境の好条件を背景に、急速に増加していく人口を支えるため、また、市民サービスの向上を図るため、道路や下水道などの都市インフラをはじめ、学校、近隣センターなどの公共施設の整備を重点的に実施し、**ベッドタウン型郊外都市**としてのまちづくりを中心に進めてきました。

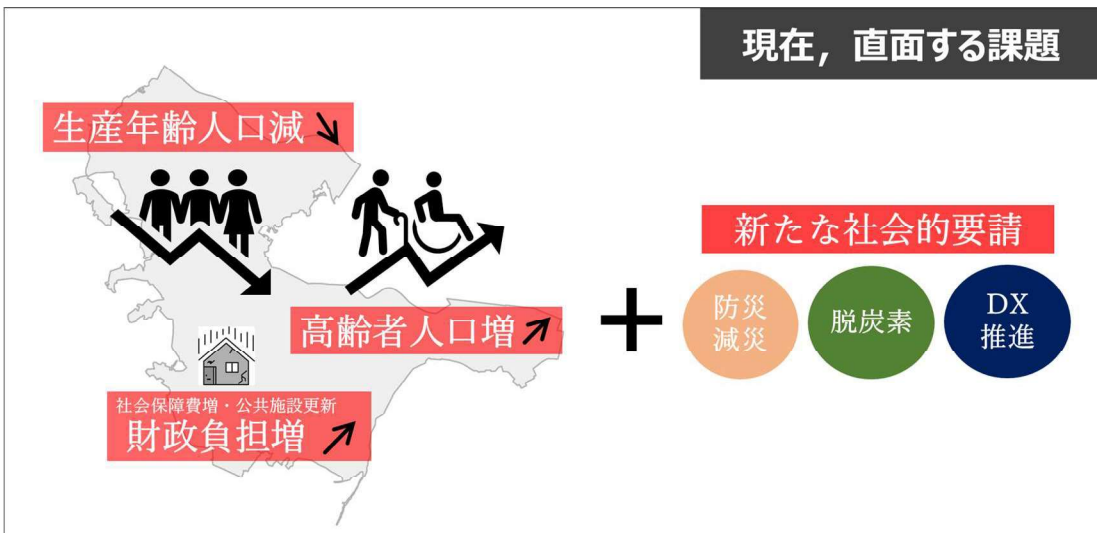
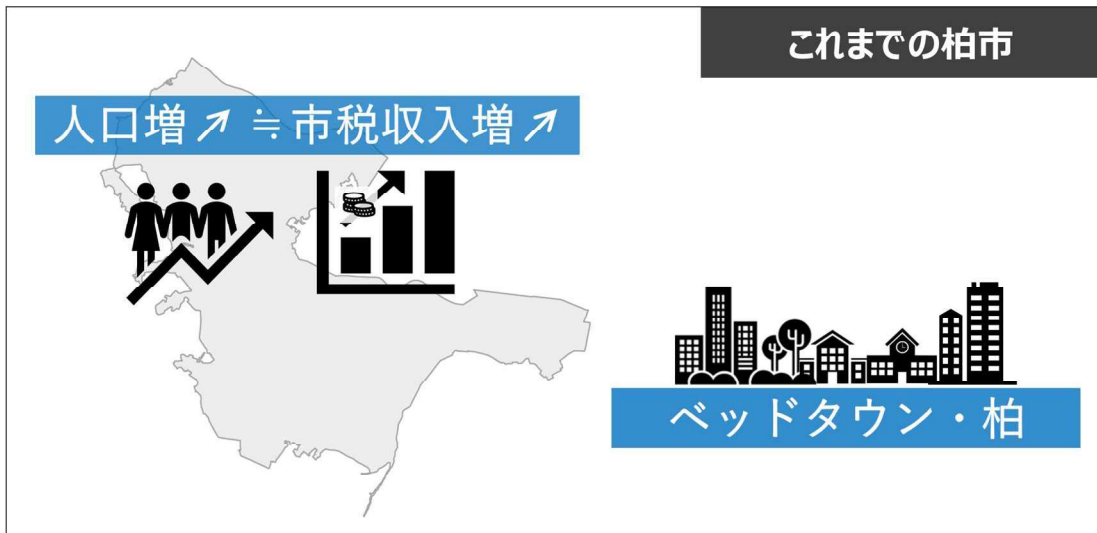
しかし、本市の成長と発展の源である**人口**は、令和5年度実施した将来人口推計では、今後10年間程度は**微増傾向**にあるものの、**ほぼ横ばい**で推移しながら、令和17年度に本市の人口はピークを迎え、ピークアウト後も短期的に大きく人口が減少するのではなく、中期的に徐々に減少していくことと推計されています。

人口構造としては、**生産年齢人口**は2030年をピークに**減少**していくものの**高齢者の人口**は、今後右肩上がり**増加**していくため、**市税収入の大きな伸びは見込めない**一方で、高齢化に伴う**社会保障費の増加**が見込まれています。加えて、人口急増期に建設した公共施設の老朽化が進み、これら**公共施設の更新等に多額の費用**が掛かることも想定されるため、市の財政状況は一層厳しくなることが予想されます。

このように、本市の成長を支えてきた人口も大きな増加が見込めないなかで、転入してくる市民の生活・居住環境を受動的に整備していく**ベッドタウン型郊外都市**としてのまちづくりだけでは、**持続的な街の成長には限界**があります。

一方で、社会全体の課題としては、地球規模の気候変動が各地で豪雨災害を激甚化・頻発させています。このような将来に向け予測不能な事象への**防災・減災対策**や**脱炭素社会の実現**に対応することが必要です。また、新型コロナウイルス感染症がまん延する危機的事象を経て、社会経済の構造も大きく変化しました。その中で急速に進む**デジタル社会**においては、行政サービスの効率化や市民の利便性を高める**自治体DX**の推進が求められます。

これからの新しい時代や社会へ適応するためには、限られた経営資源を生み出す工夫や、これまでの**行政運営の見直し**を行う必要があります。



3. 新総合計画策定にあたっての基本的な考え方

現在の社会情勢や直面する課題等を踏まえ、未来に向けて柏市は、自立した産業や文化等が集積し、新たな定住者や来訪者、新規事業者等を吸引する東葛飾圏域の**中核となる都市**を目指します。さらに、新しく集まった人々と連携・共創してシナジー効果を発揮できる環境づくりを進め、**圏域や社会を先導する街**として、未来を見据えたまちづくり政策を実行していきます。その上で、柏市の成長と活力を支えてきた43万人の市民も、今も未来も**安全で豊かな暮らしを実感**でき、柏市に**住み続けたいと共感**できるまちづくり政策にも取り組みます。

これらを基軸とし、未来の街を見据える戦略的なまちづくりの指針として、以下を基本コンセプトとして新総合計画を策定します。

ベッドタウンから リーディングコアシティ へ

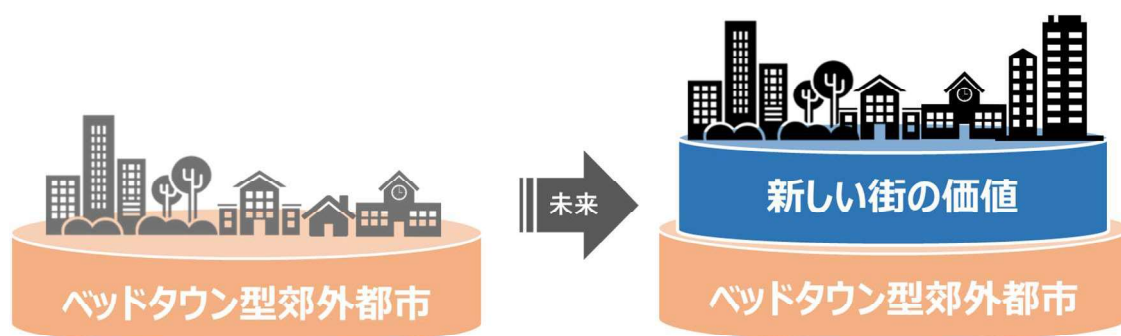
- 未来を見据えて、社会や日本を先導する街を目指す
- 自立した産業や文化等が集積する東葛飾圏域の核となる都市を目指す

今も未来もWell-being を届ける街

- だれ一人取り残さない 安心して幸せに暮らすことができる街を目指す
- 住みたい・住み続けたい“ふるさと”として愛着と誇りを持てる街を目指す

※ Well-being（ウェルビーイング）とは、心身ともに良好な状態にあることを意味する概念で、「幸福」とも翻訳されますが、ここでは、**誰にとっても価値のある状態**と定義します。

〈街としての成長イメージ〉



II

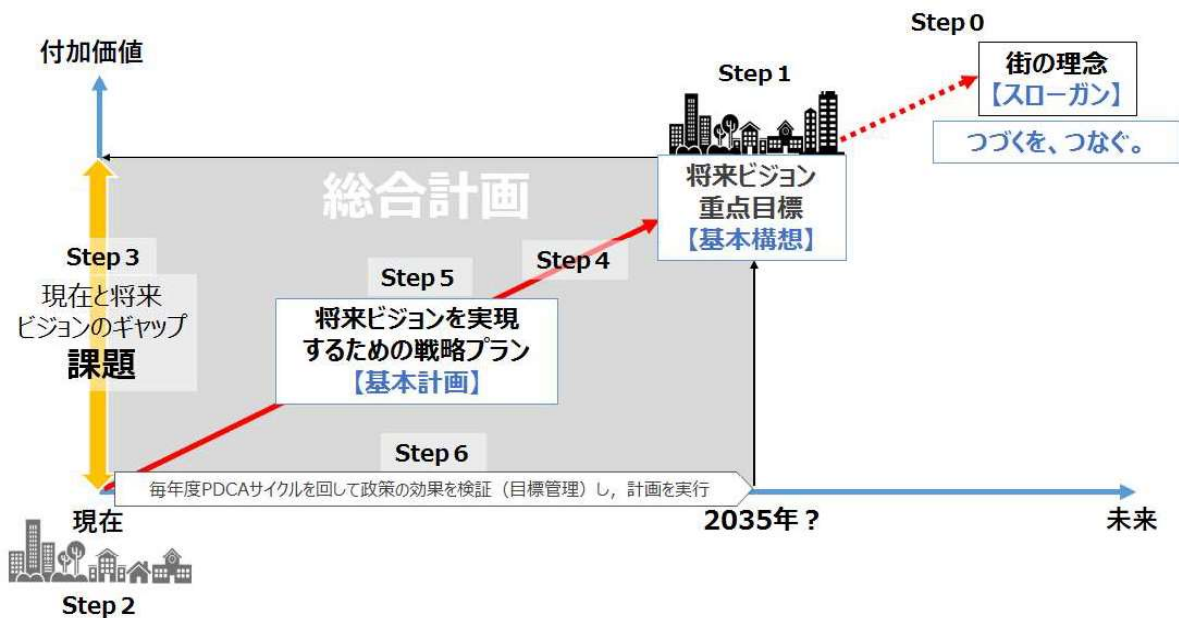
新総合計画の体系と構成案

1. 新総合計画策定に向けた思考プロセス

社会を先導する街への変革，Well-being な街の実現を目指すための未来戦略として新総合計画を策定していくにあたっては，これまでの社会やまちづくりの延長線上に未来像を描く【フォアキャスティング】の思考ではなく，目指す街の未来像（将来ビジョン）を設定してから，その未来像を実現するためのプロセスを描く【バックキャスティング】の思考を特に重視していきます。

また，設定した未来像（将来ビジョン）は共有することが目的ではなく，その未来像を実現し，**社会や市民生活をよりよくすること**に意味（成果）があります。そのため，新総合計画の街の未来像は，これまでのように画一的で抽象的な内容ではなく，各地域の特性や実情を踏まえながら，柏市として進むべき道筋を示す，**新たな時代と次世代へつなぐ価値創造**を具体化したビジョンとしていきます。

〈未来に向けたまちづくりの思考プロセス案〉



Step 0 : 街の理念・価値観を設定・共有	⇒	Step 1 : 将来ビジョンの設定・価値の定量化
Step 2 : 街の特徴・現在の街の価値を把握	⇒	Step 3 : 街の現在値と目標値のギャップを特定
Step 4 : ギャップ解消のための戦略を考察	⇒	Step 5 : 戦略としてのプランの仕立て
Step 6 : プランの実行及び検証・リカバリー【PDCA】		

2. 新総合計画の体系

新総合計画は、第五次総合計画と同様、街の将来都市像や重点目標などを含む【基本構想】と、基本構想を実現するためのまちづくりに係る施策の方向性を示す【基本計画】の2階層で構成しますが、第五次総合計画と大きく異なる点として、基本計画の階層に、柏の未来に向けた価値を創造するための戦略の核となる【戦略プラン（仮称）】を設定し、他の政策群とは別に重点プロジェクトを位置づけ、企画部主導でマネジメントしていきます。

また、現在、庁内に120を超える各分野の部門計画が策定されており、それらの各部門計画と機動的に連動を図るため、新総合計画の基本計画部分において、政策分野の再構築と各分野におけるまちづくりの基本的な方向性を示していきます。

そのため、各分野の具体的な事業活動は、各部門計画にて示し、全庁的な政策体系として新総合計画と連動することで、機動的で効果的な行政運営を推進していきます。

〈まちづくりにおける階層のイメージ〉



3. 戦略プランの基本的な考え方

新総合計画の核となる戦略プラン（仮称）に位置づける重点プロジェクトは、今後、柏市の現状分析や将来予測などを踏まえ、柏の未来像（将来ビジョン）を実現するにあたり、特に障壁となる社会課題を特定したうえで設定していきます。また、重点プロジェクトに位置づける政策については、次の要件を充足した取り組みを中心にとりまとめていきます。

必要要件	補足
1 個別最適な視点でなく、 全体最適 な視点の政策	重点プロジェクトは、特定の事象や分野の成果にだけ寄与するのではなく、市全体として分野横断的な成果に寄与する政策を実行する
2 既定の価値観に捉われない 新たな機軸 となる政策	既存の価値観や政策に捉われず、新しい街の価値創造に向けて、これまで取り組んでこなかった領域にもチャレンジする政策を実行する
3 今だけでなく、将来を見据えた、 未来志向 の政策	現在顕在化している社会課題だけでなく、潜在的な課題を早期に捉えて、将来的に表面化する課題を未然に防止する政策を実行する

〈新総合計画・戦略プランの体系イメージ〉



Ⅲ

新総合計画策定の進め方

1. 策定体制

新総合計画を策定していくにあたり、市民の方々や市議会をはじめ、まちづくりに関係する様々な方々と対話や議論を重ねながら、柏市に関係する人々が共感できる、未来に向けたまちづくりの「道しるべ」としてとりまとめていきます。

具体的な策定体制に次のとおりです。

- 市民参画

市民が想像する未来の柏市への想いを汲みとりつつ、まちづくりへの関心や関係性を高め、未来を担う子どもや若者たちにも市政に関わる機会として、以下のような市民参画に取り組む予定です。

子どもアンケート	小学4年生から中学3年生を対象に、「未来の柏への想い」などについて、GIGAタブレットを通じてアンケートを実施
市民ワークショップ (若者+成人)	未来の柏を担う若者（高校生・大学生）を対象に、子どもアンケートの結果も含め、柏の未来像に関するワークショップを実施 無作為抽出により案内状を送付した市民の方を対象に、今後10年間で特に重要な内容などに関するワークショップを実施
審議会への参加	公募委員として、柏市総合計画審議会に参画し議論する
パブリックコメント	新総合計画の案について、幅広い世代の市民の方々から意見を募る

- 柏市議会

柏市総合計画審議会における内容等については、議会に適切に報告します。また、新総合計画の基本構想について、柏市総合計画策定条例に基づき、議会の議決を経ていきます。

- 柏市総合計画審議会

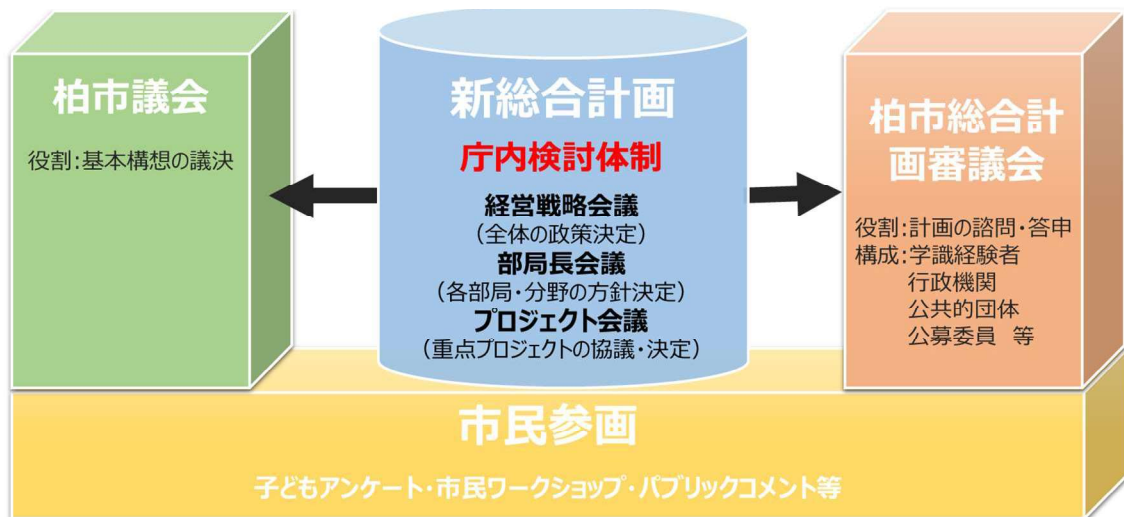
柏市総合計画策定条例に基づき、学識経験者や行政機関、公共的団体、公募委員等で構成する柏市総合計画審議会を設置し、各委員の持つ専門的な見地等から、総合計画の内容について議論を重ね、市に答申します。

- 庁内検討体制

庁内における新総合計画の検討体制として、経営戦略会議、部局長会議、プロジェクト会議を設置し、計画の骨子、素案をとりまとめていきます。各部署は、本策定方針に基づき、各部門計画や所掌の事業等を検討していきます。

経営戦略会議	市長，副市長及び各部局長により構成し，全体としての政策決定を行います
部局長会議	部局を統括する各部局長により構成し，主に政策分野に関わる方向性等を議論します
プロジェクト会議	戦略プラン（仮称）の重点プロジェクトに係る各部署により構成し，重点プロジェクトの体系や指標，進め方等を議論します

〈新総合計画の策定体制イメージ〉



2. 新総合計画を構成する項目案との関係図

策定体制の各機関で議論・協議する新総合計画を構成する項目案（基本構想，基本計画等）は，以下のとおりを予定しています。

基本構想		基本計画	
将来都市像	重点目標	戦略プラン	分野別方針
子どもアンケート			
若者ワークショップ	成人ワークショップ		
パブリックコメント			
市議会			
柏市総合計画審議会			
経営戦略会議			
部局長会議			
プロジェクト会議			



柏市新総合計画策定方針

発行年月：令和5年11月

発行・編集：柏市企画部 経営戦略課

〒277-8505

千葉県柏市柏五丁目10番1号

04-7167-1117 (直通)